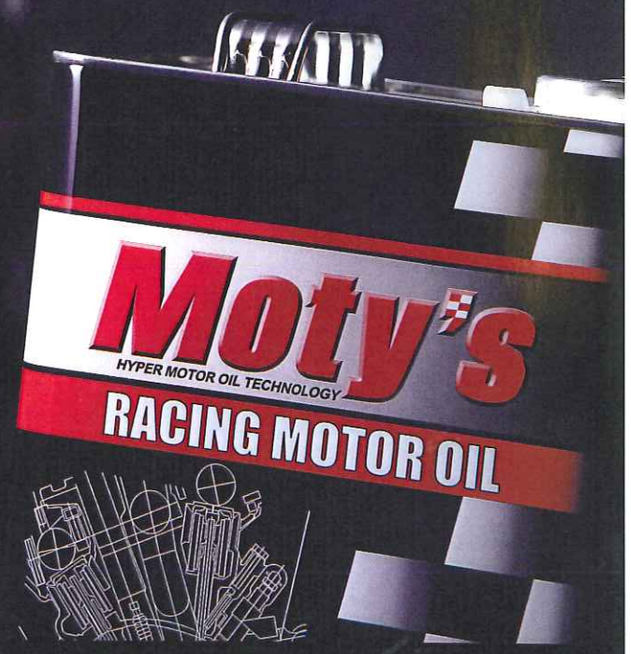
エンジンにあわせた独自の配合が各所でベストといえる性能を発揮する

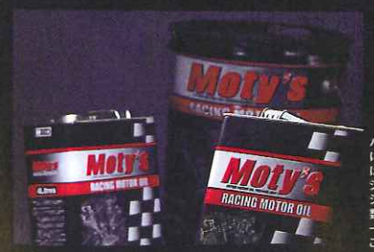
潤滑剤における特殊技術で知られるトライボジャパンが開発した新オイルブランド、モティーズ。
エンドユーザーにはまだまだ浸透していない名前かもしれないが、
いま全国のチューニングショップを中心に、大きくシェアを拡大している新進気鋭のブランドだ。
チューニングエンジンに使うことを前提につくられているという、高性能オイルの秘密に迫る。



RACING MOTOR OIL

Moty's

問トライボジャパン ☎03-3806-8277 http://www.tribojapan.co.jp/



ハイスペックオイルに限定しているにもかかわらず、基本ラインアップは15種類にもなり、現在開発中のシリーズをあわせると20種類、スペシャル品をカウントすれば100種類を超えるという幅広さ。それもユーザーが求めるものをつくることにこだわるがゆえだ。

PHOTO：金子信敏

チューニングカーのためのハイスペックオイル

エンジンのポテンシャルを引き出し、なおかつコンディションをキープするという面からも重要なエンジンオイル。市場にはさまざまなタイプがラインアップされているが、チューンドエンジンには、やはりそれに見あったハイスペックオイルを選んでやるべきだ。

いま全国の腕利きチューナーたちが、こぞって使いはじめているオイルがある。昨年スタートしたばかりの新鋭ブランド、モティーズのレーシングオイルだ。大手メーカーをふくめ数あるハイスペックオイルのなかから、なぜモティーズなのか。その理由は、ただハイスペックなだけではなく、そこから一歩突っこんだところを重要視している点にある。

「チューニングカー用のハイスペックオイルを開発するのはどうぜん。ですが、ひとことでチューニングカーといっても、チューニングのありかた、車種、走行条件などによって求められる性能はこまかくちがってくるワケで、よりカンペキを求めるチューナーほど、その要求はシビア。私たちはそんな声に応えられるオイルをつねにめざして開発してきました」と、トライボジャパンの技術スタッフはいう。

では、具体的にはどこにこだわっているのか。ひとつはベースオイルの選定だ。エンジンオイルは鉱物油と化学合成油に大きく区別でき、一般的には100%化学合成油がすぐれるといわれている。しかし、モティーズの考えはかならずしもそうではない。

技術スタッフによると「合成ベースといっても、その種類はさまざまです。一般的にはエステルやPAOといわれていますが、エステルひとつ取っても特性のちがいで数種類に大別されますからね。そして多くのケースはそれら化学合成基油をベースとするワケですが、本来の鉱物油をベースにするケースもあります。たしかに技術の進歩からは逆行するカタチになりますが、鉱物油には自然界に依存する物質の根源たる独自性が秘められているのです。もちろんデメリットもあるワケで、成分を理解し、使いどころを見極めてやれば、本来の鉱物油がベストになることもあるんですね」。

さらに、ベースオイルの選定以上にこだわられているモティーズオイル最大のポイントが、添加剤の配合だ。添加剤はどんなオイルにも入っているものだが、耐熱性や潤滑性など、オイルのどういった性能を特化させてやるかで、配合は変わってくる。あと200rpmだけレブリミットをあげたい、ライフは短くなってもいいからレスポンスをよくしたい、高温にさらされつづける環境にあるので熱安定性を上げたい、といったマニアックな要求に応えるために、モティーズは独自の配合バランスを追求。自社内での研究のほか、メーカーやショップ、サーキットといった現場へ足を運びデータ取りをすることで、よりよいオイルをつくりあげようとしているのだ。

そんなモティーズオイルは、全国のチューニングショップ（取りあつかいショップはトライボジャパンへ問いあわせ）を通じて購入することが可能。最高を求めるRB26オーナーは、ぜひいちどその性能を体感してほしい。

オイル以外にも注目! ハミ出しパーツ情報

パワーチャージャー&オクタンチャージャー

価格：1470円（パワーチャージャー）
2100円（オクタンチャージャー）

どちらもガソリン用添加剤。パワーチャージャーは含酸素化合物を添加することで混合気にふくまれる酸素量をふやすことができ、爆発力をアップ。パワーアップの効果を生む。また、燃焼室のカーボンを除去する洗浄効果もあわせ持つ。オクタンチャージャーはオクタン価の数値をあげられるもので、夏場の走行やセッティングをギリギリまで攻めたときなどの、ノッキング防止策として使うのがベンリだ。

スーパーロングライフレーシングクーラント

価格：1950円 ℓ（20ℓ缶のばあい）

ゴムや金属への攻撃性のほか、低温特性&耐久性の低さなど、できるかぎり水温を低下させるためのトレードオフとして、レーシングクーラントに発生しがちな負の要素。モティーズでは、これらすべてを排除することに成功。水温が下がりやすい上に安定性も高く、さらに凍結点はマイナス30度を超えるクーラントに仕上がっている。現在、製品の最終調整を行っていて、4月中に発売される予定だ。

チューンドRB26にオススメのオイルはコレ!

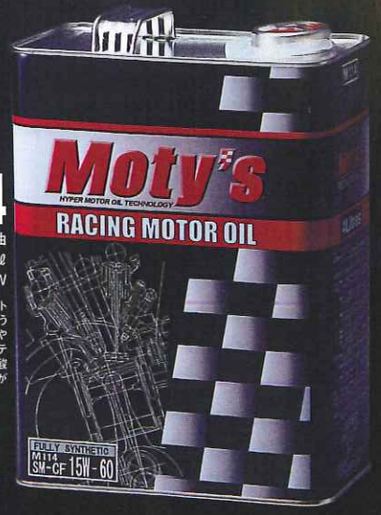
M114

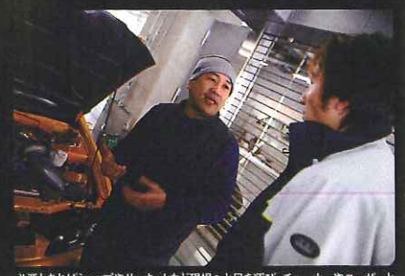
100%化学合成油
価格：3800円 ℓ
粘度：15W-60W 15W-50W

ハードなチューニングやサーキット走行といった、高温&高負荷で使うことをコンセプトに開発。耐熱性や溶解性、吸着性にすぐれたエステル系合成基油を使い、耐熱&耐酸化特性を高めるための添加剤がバランスよく配合されている。

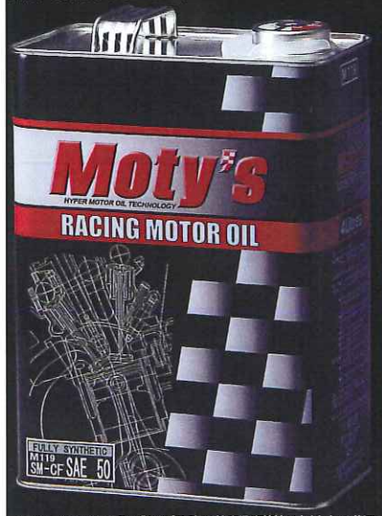
M119

100%化学合成油
価格：5600円 ℓ
粘度：SAE50（15W-50W）





必要とあればショップやサーキットなど現場へと足を運び、チューナーやユーザーとジックリと意見交換をしながらオイルのこまかな仕様を煮つめていく。現場と密にやりとりをしようとする熱意やフットワークの軽さもまた、モティーズの魅力といえる。



モティーズオイルのフラッグシップモデル。粘度温度特性にすぐれたハイドロカーボン系合成基油と、耐熱&吸着性にすぐれたエステル系合成基油を主成分とした、ノンポリマータイプだ。といくに油膜保持性能が高く、高温高負荷で連続長時間使用に耐える性能を持つ。

このほか年内にぞくぞくと新製品が登場する予定!

チューナーに聞く "モティーズオイルのここがイイ!!"

ここでは、じっさいにモティーズオイルを使っているトップチューナーたちの声を集めた。どういったところに魅力をかんじているのか、プロの意見を聞いてほしい。

トップシークレット 永田サン

「ボクが欲しいと思うオイルをいつもキチッと用意してくれる。なんというか、どんなケースにも対応してくれる上に性能そのものも優れているでしょ、たよれるブランドだよ。ユーザーもふくめてウチはみんなモティーズだよ」

ガレージザウルス 林サン

「特別わるいところがない、というのがスゴイんだよ。オイルとしての役割をキッチリはたしてくれるし、信頼してる。さまざまな条件にあった情報やノウハウをメーカーが持っているし、現場主義っていうスタンスもボクらにはウレシイところだよね」

ジーイング 前田サン

「メカ的な視点からいうと、モティーズのオイルを使っているエンジンをばらしたときに、メタルをはじめとする摺動パーツのダメージがすくなくなった。いままで経験したことのないレベルでね。これはオイルがシッカリと潤滑の役割を果たしている証拠ですね」

ジェイズレーシング 梅原サン

「ウチはスーパー耐久やセパン12時間耐久といった、過酷な条件下でどれだけ性能を発揮してくれるか昨年からテストをくり返しています。いまのところノントラブルでスバらしい結果が得られていますし、信頼のおけるブランドでしょう」